

2010年3月発行 第6号

Newsletter

全国保健師教育機関協議会

保健師教育変革の時、充実に向けてともに歩みましょう！

会長ご挨拶

全国保健師教育機関協議会会長 村嶋幸代（東京大学 教授）

新年度を迎え、お忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

昨年度は、保助看法の改正による教育年限の延長、文部科学省の検討会で保健師教育の学士課程での選択制や、修士課程・専攻科での教育が認められました。私どもの協議会は、全国助産師教育協議会、日本看護協会とともに、1月15日に川端文部科学大臣にお会いし、現行の保健師教育等の問題点についてご説明し、善処をお願いしました。

これらの結果を受けて、既に、平成23年度から修士課程で保健師教育を開始すべく準備をし、文部科学省に相談に行った大学も出てきました。また、選択制に向けて学内の意思を統一し、具体的に対応し始めた大学も出てきました。今後、この動きは、加速していきます。全国保健師教育機関協議会では、適宜、情報交換会を開催し、移行に向けた方法論を、皆様に、お伝えしたいと存じます。

保健師教育について検討すればするほど、教育課程の質を保証する仕組みが必要なことを痛感します。また、活発に活動すれば、活動資金を確保する必要性も感じます。

これを可能にするためには、全国保健師教育機関協議会が、社団法人となる必要があります。既に、昨年度の総会で、当協議会の将来計画を検討することが承認されました。この総会決議を受けて設置された将来計画委員会が鋭意検討を進め、3月6日の理事会で、本協議会の法人化を進めることが承認されました。目下、司法書士、税理士、全助協の方々からも情報を得て、基本方針、定款、メリット・デメリット等を検討中です。

次回、5月21日の理事会で税理士、司法書士の契約見積もりや定款案、事務所案等を検討し、承認されれば、7月の夏季研修会の時に臨時総会を開催して会員校に回ります。そこで法人化をお認めいただければ、10月の総会で定款をお諮りするというスケジュールで進めたいと考えています。情報は十分に流し、各ブロックで検討して頂けるようにします。

2010年3月6日に開かれた日本保健師連絡協議会では、各団体のアクションプランを共有しました。全国保健師教育機関協議会も、アクションプラン2010を提案しました。この方針に基いて、平成22年度も積極的に活動したいと存じます。

平成22年度は、本会が30周年を迎える節目の年です。国民のために、より質の高い保健師教育ができます様、会員校の皆様と共に頑張っていきたいと思っております。ご支援とご協力を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

21年度総会報告

平成21年度総会が平成21年10月20日 奈良県で開催されました。

＜全国保健師教育機関協議会＞

目的：保健師教育の質向上を図り、公衆衛生の向上に寄与する(昭和55年創立)

加入校：135校(大学115、短大6、専修学校14)

活動報告

(1) 保健師教育の質の向上に向けて

1) 総会・研修会・交流会開催

①8月1日：教員研修会「保健師教育の拡充の方向性についての検討」

②9月4日：理事会において、1. 大学院の開設にあたっての教員組織や申請、2. 助産師教育が1ヶ年以上になっての全国助産師教育協議会の戦略、3. ミニマム・リクワイアメンツの作成方法・留意点、4. 行政との関係の持ち方など、協議会としての戦略を情報交換した。(講師：全国助産師教育協議会・平澤会長)

③10月20日：総会「教育課程、積み上げの根拠、ミニマムリクワイアメンツ、保健師教育課程質保証基準等に関する見解をとりまとめ、各方面に提言していくことが承認された。

④10月21-23日：日本公衆衛生学会の全保教ブースを活用し伝達活動を行った。

⑤11月27日：第28回日本看護科学学会で「保健師・助産師教育の将来像」を有志が企画・交流

⑥12月21日：「保健師のあるべき姿の実現に向けた保健師教育―指定規則改正の必要性―」

2) 調査・研究活動

①「保健師教育拡充に向けた教育体制に関する調査」(7月10～24日)、結果報告(10月4日)

②「法改正に伴う1年以上の保健師教育課程に関する提言」に向けた意見収集(第2回)(12月2日)

3) 教育課程案等の作成

①教育課程検討班：保健師教育のコアカリキュラム作成、教育内容等を検討。

②「看護系大学における保健師教育の向上に向けた方策 Q&A」を作成

4) 検討会への出席

①文部科学省「大学における看護系人材育成の在り方に関する検討会」(村嶋幸代会長)

②厚生労働省「看護教育の内容と方法に関する検討会」(岡本玲子副会長)

5) 研究協力

・地域保健総合推進事業「保健師教育における新カリキュラムに対応した臨地実習のあり方に関する調査研究」に協力

(2) 保健師国家試験対策

1) 保健師のスキルを問うための問題作成を目指した活動(厚生科研川本班の分担研究への協力)

①8月2日、12月21日：国家試験問題作成能力の向上を目的としたスキルアップ研修会

②平成20年度応募問題検討「保健師国家試験応募問題からみた出題傾向と保健師国家試験の在り方」

2) 保健師国家試験問題の妥当性の評価

①第95回保健師国家試験問題の修正イーベル法による分析結果についての検討

②第96回保健師国家試験不適切問題調査の実施と厚生労働省への進言

3) 国家試験問題公募問題数の増加及び質の向上

①国家試験問題公募の増加に向けて、Web入力による公募勧奨の広報活動

(3) 要望活動

- ①11月11日：川端達夫文部科学大臣に「助産師教育および保健師教育の充実に向けた改革加速に対する要望書」を、全国助産師教育協議会とともに提出。
- ②11月20日：「保健師国家試験問題改善への要望－保健師として基本的能力を問うことのできる試験問題の作成を－」を、厚生労働省医政局看護課長、医政局医事課試験免許室長宛提出。
- ③平成22年1月15日 川端達夫文部科学大臣に、保健師教育の問題点と大学院化の必要性等を、日本看護協会、全国助産師教育協議会とともに説明・要望

(4) 広報活動

- ・ホームページの充実に向けたコンテンツ整理、タイムリーな情報の配信による活動の活性化
- ・ニュースレター発行、日本公衆衛生学会総会での紹介ブース設置による広報

(5) 30周年記念事業に向けた活動

- ・発足30周年記念式典（平成22年10月26日（火）午後）と、記念誌発行にむけての活動

委員会報告

保健師教育検討委員会

教育課程検討班：○岡本玲子、奥山則子、小野ツルコ、
佐伯和子委員、安齋由貴子委員、麻原きよみ委員
体制づくり班：○後閑容子、荒賀直子、多田敏子、鈴木るり子
地域保健総合推進事業：○多田敏子、横山美江

1. 平成21年度の主な活動

1) 教育課程検討班では、保助看法の改正等の国の動きを受けて、会員校の意見をとりまとめ、教員研修会や総会、ワークショップ等の機会を通して伝達した。昨年度の意見収集結果について看護学教育学会にて発表するとともに、今年度の意見収集等の結果も合わせて、日本公衆衛生学会誌9月号より連載「保健師助産師看護師法改正に伴う保健師教育の展望」に内容を反映した（日本公衆衛生学会公衆衛生看護のあり方検討会とも連携）。また、関東ブロック自主活動グループとも連携し、保健師教育のコアカリキュラム原案を作成した。

2) 体制づくり班では、保助看法改正直後に「保健師教育拡充に向けた教育体制に関する調査」を実施し、教員研修会やホームページを通じて伝達するとともに、月刊地域保健にも掲載した。また法人化等重要課題の検討に向けて「将来計画検討委員会」設置を提案し理事会で承認を得た。

3) 平成21年度「地域保健総合推進事業」においては、全国保健師長会と連携し「保健師教育における新カリキュラムに対応した臨地実習のあり方に関する調査研究」を行い、報告書（研究代表者 森岡幸子）を作成した。

2. 平成22年度

平成22年度は、全国保健師教育機関協議会アクションプラン2010「実力ある保健師、〈地域や職域全体を看護することのできる保健師養成〉をめざして、以下アクションプランを実行する。

1. 先駆事例情報の共有

- 1) 大学院化の実現に近い（実現を目指す）先駆校より情報を得る
- 2) 大学院化のステップとして学士課程での選択制を決めた大学より情報を得る

3) 継続的情報交換会の開催

- ①H22. 3. 7 (日) 10:30-12:30 聖路加看護大学 (40 名参加：北海道・東北 3、関東・甲信越 18、東海・北陸・近畿 12、中国・四国 4、九州 3)
- ②H22. 7. 10 (土) 13:30-15:00 北海道立道民活動センターかでの 7 階 710 会議室
日本地域看護学会ワークショップ「保健師になる学生を育てる保健師教育課程」
- ③H22. 7. 31 全保教教員研修会午前の講演を企画+夜に情報交換会を企画予定
- ④H22. 10. 27-29 公衆衛生学会交流集会 (又はしゃべり場)

2. Q&A の作成と会員校への配信 (メール&ホームページ)

1 で得た情報、委員会で検討した内容をもとに、(1) 合意形成を図る方法、(2) カリキュラム改正の工夫などについて発信する。

3. 全保教版大学院修士課程における保健師教育課程における教育方法と内容の明確化

コアカリキュラムやミニマムリクワイアメンツを継続して検討する。

4. 教育成果の検証システムの構築に向けた検討

10 年スパンの研究デザイン、経年的データ収集について検討する。研究費の獲得をめざす。お会いすることを楽しみにしています。

国家試験対策委員会

担当 安藤陽子、岸恵美子、松田宣子、野村美千江、中島歌与子

国家試験対策委員会では、教員の国家試験作成能力の向上のために研修会等を企画し実施してきました。平成 21 年度は 2 回の研修会を実施し多くの先生の参加があり、国家試験が自分達の教育評価と連動することを意識していただけたと思います。平成 22 年度はこれまで同様に、国家試験のプール問題の確保、そのために問題の分析力と作成能力の向上を目指します。方法としては、これまで全国規模で実施していた研修を 2 段階に分け、ブロック単位の初級研修 (国家試験の教育的意義等) と全国レベルの中級研修 (これまでの国家試験問題の分析と作成) を考えています。この中級研修は、夏のスキルアップ研修では、これまで実施された 4 回の研修のいずれかを受講した方を対象に、問題を分析し、更には問題作成に取り組みたいと思いますので、多くの先生の参加をお待ちしております。

30 周年記念式典の概要

1. 開催日時：記念式典 平成 22 年 10 月 26 日 (火) 14:10~17:30 祝賀会 17:30~20:00
2. 会場：東京ガーデンパレス 高千穂
3. 式次第：
 - ・会長挨拶
 - ・30 周年記念講演：奈良県立医科大学 車谷典男教授
 - ・記念式典
 - ・交流会
4. 祝賀会：会場 高千穂

全国保健師教育機関協議会総会に引き続き、同じ会場で開催しますので多くの会員校の方にご参加いただき 30 周年にふさわしい会にしたいと思います。多数ご参加くださいますようお願いいたします。

広報委員会

横山美江（大阪市立大学大学院）

平成21年度における広報委員会の活動は、全国保健師教育機関協議会の目的や事業内容および保健師教育に関連する情報をニュースレターやホームページを通じて、タイムリーに周知し、本協議会活動の活性化を図ることを目指して活動いたしました。さらに、保健師活動の魅力を伝えられるようなホームページへとバージョンアップできるように準備を進め、平成22年3月にリニューアルを行いました。ご協力いただきました会員の皆様方には、心から感謝申し上げます。

リニューアルしましたホームページのトップ画面には、写真を活用し、保健師の魅力を視覚的に伝えることのできるものとしたしました。さらに、「これから保健師を目指す人、保健師になりたい人」向けの項目としまして、①保健師という職業についての解説、②保健師に関する統計、③保健師が活動する場所（行政、産業、学校、在宅など）、④保健師養成の方法などのコンテンツを新たに掲載しています。

また、2009年の保健師助産師看護師法の一部改正を受けまして、今後保健師教育が大きく変わろうとする中、本委員会では、会員の皆様に有用な情報を速やかにお届けできるようホームページへの掲載も行っています。是非ご活用ください。

ブロック報告

北海道・東北ブロック

北海道地区は、平成22年3月27日に今年度最後の会議を実施します。北海道では他県に先駆け実習制限が提示され、地域看護教員は何とかしなくてはと考えるそれぞれの所属で行動開始しています。しかし、北海道内の学校間で温度差があるようで、平成22年度は、各関係機関毎ではなく保健師同士の足並みを揃えていくよう活動をしていきたいと考えています。そのためには、看護協会、師長会、北海道庁、そして協議会が連携した活動を強化していく予定です。

東北地区では、平成21年度は4回の研修会を開催しました。11月14日の研修会は東北6県の看護協会保健師職能・保健師長会・教育機関合同の研修会を盛岡で開催しました。講師は村嶋幸代会長、テーマは「保健師の専門性について～ゆるぎない保健師活動のために～」講演会終了後は、各県の情報交換会をしました。参加者は東北6県から117人、教育の現状や保健師のゆるぎない活動のために今何が重要なのか情報交換できました。平成22年度は、さらに保健師職能・保健師長会・教育機関の連携を強化し、保健師教育の改正に向け活動していく予定です。

担当理事：安藤陽子（北海道保健看護大学校）、鈴木るり子（岩手県短期大学）

関東・甲信越ブロック

平成21年度最後の定例会が以下のように開催され、20校32名の参加がありました。

日時：平成22年3月20日（土）14：00～18：00

場所：東京大学医学部教育研究棟 第4セミナー室

内容：1) 理事会・日本保健師連絡協議会報告 2) 平成22年度関東甲信越ブロック定例会活動計画案の検討
3) 保健師教育のあり方に関する情報交換
4) 研修会

テーマ「高齢者保健医療のサポートシステムのあり方を考える

～松戸市における在宅医療連携・高齢者虐待防止ネットワークの活動を通して～

講師：あおぞら診療所高知潮江 診療所長 和田 忠志 氏

現在の会員校は33校。新規加入校が増え、今後の保健師教育のあり方について情報共有しながら検討していきたいと考えています。また22年10月26日の全国総会と併せて、30周年記念式典が行われ、本ブロックが運営担当になっております。皆様のご参加をお待ちしております。

担当理事：岸恵美子（帝京大学） 北岡英子（神奈川県立保健福祉大学）

東海・北陸・近畿ブロック

当ブロックの加盟校は45校となりました。

平成22年2月23日(火)に京都平安会館でブロック教員研修会を開催しました。

参加校は33校で参加者は58名と多くの参加者が得られました。

プログラムは、二つの内容で行いました。

テーマ「コーチング」で講師の坂井慶子先生の講演とワークショップがあり、日頃の学生との関わり方、育て方のノウハウを学ぶことができました。

また、グループ討議のテーマは「各学校における今後の保健師教育の方向性と現在の課題」であり、各府県の保健師実習の受け入れの状況や各校の保健師教育の方向性や課題が出されました。今後保健師教育をどのように進めていくべきか各校とも大変悩んでいる状況が見られましたし、保健師教育に関連する情報を多く得たいと話されていました。

担当理事 松田宣子(神戸大学) 横山美江(大阪市立大学) 小野ツルコ(関西福祉大学)

中四国ブロック報告

平成21年度は、7月20日(月・祝)(岡山市:ピュアリティまきび)、平成22年3月1日(月)(岡山市:ままかりフォーラム会議室407)の2回、午前に協議会、午後に研究会を開催し、会員校の情報交換、内規の見直し、相互交流などを行った。3月1日の研究会は、非会員校にも公開し、協議会のPRの機会としても位置づけた。会員校は、2校が退会したが、8校の入会があり、全体として6校増えた(46.2%増)。中国地域は6校から10校に(残り非会員校11校:うち3月1日に参加6校)、四国地域は7校から9校に(残り非会員校2校:うち3月1日に参加1校)なった。

7月の研究会には14校(32人)が参加し、8月1日の教員研修会に向けて、保健師教育のコアカリキュラム等について話し合った。3月の研究会は、佐伯和子先生(北海道大学大学院保健科学研究院教授)をお招きし、「卒業時の質保証ができる保健師教育～高度専門職業人としての保健師の養成を目指して～」を拝聴し、皆でディスカッションを行った。会員校17校(38人)、非会員校7校(10人)の参加があり盛況であった。

担当理事:岡本玲子(岡山大学) 野村美千江(愛媛県立大学)

九州ブロック報告

2月19日に「保健師教育の変遷～私と保健師教育の関わり」と題して、今年度いっぱい退職される福岡女学院大学、本川眞弓先生の講演会を開催しました。本川先生の50年に及ぶ保健師活動・保健師教育の中に、いつの時代にも住民から求められる保健師を育成することが大切であるという先生の熱い思いを感じることができました。本川先生から直接あるいは間接的に教えを受けた先生方、共に保健師教育を行ってこられた先生方を含め、会員校から21名、非会員校から6名、計27名の参加がありました。

3月12日は聖路加看護大学の麻原きよみ先生をお招きし、「これからの保健師教育のあり方」と題し、公衆衛生看護マインドを育てる倫理教育の必要性、根拠に基づいて看護実践ができる能力育成の必要性などについて講演いただきました。教育内容はもとより知識や経験を積み上げていく教育方法の精選と評価が求められていると感じた研修会でした。会員校から18名、非会員校から5名、計23名の参加がありました。

九州ブロックは、21年度に会員校が10校から14校に増え、50%の加入率になりました。より積極的な活動を実施していきたいと思っています。

担当理事 尾形由起子(福岡県立大学) 中島歌与子(佐賀県立総合看護学院)

実力ある保健師「地域や職域全体を看護する」ことのできる保健師養成を目指す

- I. 一校でも二校でも大学院で保健師教育が行えるようにする。
そのステップとして、学士課程で選択制を取る大学を後押しする。
○大学院修士課程における保健師教育課程、開設と運営に向けて
 1. コアカリキュラム、ミニマムリクワイアメンツ作成
 2. 継続的情報交換会を開催し、教育改革を進める
 - ①第一弾：平成22年3月7日（日）10:30-12:30 聖路加看護大学で開催。
 - ②国や社会の動きに合わせて開催。各ブロックでの情報交換会も計画する。
 3. 合意形成を図る方法を明確化し、取り組み易くする…成功例を積み重ねる
 - ①学内での合意形成：「保健師教員同士」「看護教員間」「学部長」「学長」
 - ②大学間のネットワークづくり、
 - ③看護協会とのネットワーク
 - ④都道府県、市町村との連携
 - ⑤全国保健師長会との連携
 - ⑥同窓会の後押し
 - ⑦大学の設置主体・理事長・理事会への説得
 ※教育課程別および設置主体別の戦略を具体的に示す様に事例を集約する。
 4. 研修会・広報活動を通じた周知活動
 5. Q&A 集づくり
- II. 保健師教育課程、教育内容、保健師活動の質保証・評価に関する活動を行う。
 1. 保健師国家試験の質向上に向けた活動
 - ①国家試験出題内容への意見提出、
 - ②望ましいあり方・出題基準等を検討
 2. 保健師教育機関の質保証・評価システムの構築に向けた活動
 - ①認証評価システムの検討
 - ②教育成果の検証システムの構築…教育と保健師の質・課題の経年的観察
 ※単独の大学でなく、会員校で参加できる所を10年スパンで考える
- III. 広報・研修活動、
 1. 夏季研修会・スキルアップ研修会・情報交換会の開催、ホームページ・ニュースレターを活用した広報
 2. 30周年記念事業で、記念誌の作成・式典開催：
平成22年10月26日（火）午後東京ガーデンパレスにて実施予定。
 3. 全国保健師教育機関協議会活動の自己評価・組織改革

編集後記

桜の季節からみどりの季節へ時の移ろいの早さに驚きながら5月も半ばになりました。ニュースレター6号をお届けします。各大学におかれては新しい保健師教育課程へと急ピッチで取り組まれていることと思います。それぞれの大学の置かれている事情があり全国一斉にはいかなくても、とりあえず必要を感じる大学が取り組んでいく事が大切かと思うこの頃です。1年間でしたがこれで理事の仕事から解放されます。いろいろご指導ありがとうございました。(T.O)

全国保健師教育機関協議会 Newsletter 第6号

発行者 全国保健師教育機関協議会 会長 村嶋 幸代

事務局 〒160-0022 東京都新宿区新宿1丁目29番8号 財団法人日本公衆衛生協会内

TEL 03-3352-4281 FAX 03-3352-4605 URL <http://www.zenhokyo.jp>